

博士課程

2020

授業科目〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院
芸術文化学研究科

授業科目〈シラバス〉について

この「2020 授業科目〈シラバス〉」は、令和2年度に大学院芸術文化科学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究Ⅰ	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究Ⅱ	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90253	比較民俗学研究A	2	前期	1・2	講義	22
90254	比較民俗学研究B	2	後期	1・2	講義	24
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	26
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	27
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	28
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	29
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	30
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	31
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	32
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	33
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	34
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	35
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	36

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90235	西洋芸術批評史研究B (偶数年度開講)	2単位 前期 (集中)	1・2	講義	小池 寿子(非)

■**テーマ** 死生学の批評史研究の一環としてキリスト教の死生観を手繰る。

■**授業の概要**

ヨーロッパのキリスト教中世における死生観を、芸術を通じて読み解いてゆく。

■**到達目標**

- ・キリスト教における死生観について理解を深める。
- ・キリスト教における終末観を学ぶ。
- ・キリスト教における来世観を学ぶ。
- ・宗教における死生観・終末観・来世観の相違について考察する。

■**授業計画・方法**

1. キリスト教中世における死生観とは
2. 創世記から終末まで—キリスト教的歴史観
3. 最後の審判と煉獄
4. 黙示録（1）中世初期から紀元千年まで
5. 黙示録（2）ロマネスクから16世紀まで
6. 死のテーマ：「三人の死者と三人の生者」「死の舞踏」「死の勝利」「墓碑彫刻」
7. 「三人の死者と三人の生者」：北方とイタリア
8. 「三人の死者と三人の生者」と「最後の審判」：フランス壁画を例に
9. 「三人の死者と三人の生者」と「死の勝利」：イタリア壁画を例に
10. 「死の勝利」の展開
11. 「死の舞踏」の成立
12. 「死の舞踏」の展開
13. 「死の舞踏」から万人の死へ
14. 「往生術」
15. 総括

※定期試験は実施しない。レポート提出

■**履修上の留意点**（授業以外の学習方法を含む）

本講義ではキリスト教における死生観を考察するが、各自の死生観・宗教観について、また今日における死生観について考えながら受講して欲しい。

■**成績評価の方法・基準**

□**方法** 授業への取組。レポート評価。

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

基本的事項を習得するとともに、つねに本テーマについて考察しながら、自身の意見を明確にする。

芸術文化学研究所（博士課程）の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

■**教科書・参考文献（資料）等**

□**教科書** なし

□**テキスト** 小池寿子『死を見つめる美術史』ちくま学芸文庫2006年。

同 『内臓の発見—西洋美術における身体とイメージ』筑摩選書 2011年

□**参考文献** 授業時に適宜指示する。